

(資料58) 廃棄物等の発生量

区 分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量	
可燃物	80,600 kg	70,105 kg	51,135 kg	48,439 kg	40,851 kg	
実験廃液	16,519 L	13,866 L	13,474 L	12,362 L	12,102 L	
循 環 資 源	廃プラスチック類	15,054 kg	15,090 kg	15,354 kg	14,022 kg	14,271 kg
	ペットボトル	1,664 kg	1,664 kg	1,600 kg	1,585 kg	1,297 kg
	アルミ缶	542 kg	504 kg	388 kg	320 kg	399 kg
	金属くず	8,144 kg	8,519 kg	6,249 kg	4,601 kg	3,326 kg
	機器等	2,850 kg	2,223 kg	1,141 kg	427 kg	423 kg
	電池類	435 kg	469 kg	280 kg	309 kg	394 kg
	蛍光灯			951 kg	672 kg	660 kg
	古紙	46,528 kg	49,469 kg	52,139 kg	36,048 kg	37,568 kg
	空き瓶	5,475 kg	4,827 kg	4,778 kg	4,468 kg	3,923 kg
	ガラスくず	1,986 kg	1,741 kg	1,879 kg	1,608 kg	1,932 kg
	感染性廃棄物			20 kg	36 kg	83 kg
生ゴミ		2,832 kg	8,992 kg	9,251 kg	8,209 kg	
合 計	179,797 kg	171,309 kg	158,379 kg	134,146 kg	125,438 kg	
研究所の職員数	1,006人	982人	965人	1,001人	1,028人	
1人当たりの発生量	0.490kg/人・日	0.478kg/人・日	0.450kg/人・日	0.367kg/人・日	0.334kg/人・日	

注1 生ごみについては、コンポスト化により可燃物から循環資源へ区分変更(17年12月より変更)

注2 循環資源は、リサイクル専門の外部業者に全量を処理委託した。

注3 合計の重量は、実験廃液を1リットル=1kgと仮定して計算した。

注4 職員数は、通年で勤務している人数を勤務形態等から算定した数で、資料64の「常勤換算数」による。

注5 所内の研究及び事務活動から直接生じたものを本表の集計対象としている。